

学習支援充実「くまなびスクール」事業 ～補充学習の充実を図り、熊谷市内の中学生の学力を底上げする～



熊谷市教育委員会学校教育課 須藤 康親

1 はじめに

熊谷市では、二学期制の下、「確かな学力」を身に付け、生きる力を育む教育の推進に取り組み、「学力日本一」を目指している。

本市では、一般的な学力調査によって測定できる、いわゆる「知力」だけを学力とは捉えていない。思いやりの心などの「徳力」や、走力や投力などの「体力」も、広い意味での学力であり、「知・徳・体」のバランスのとれた力、これを学力と捉え、子供たち一人一人の学力を伸ばしていくために、各学校では具体的な取組を推進している。また、生きる力を育むための土台として、「熊谷の子どもたちは、これができます！『4つの実践』と『3減運動』」を、大人が手本となり、学校・家庭・地域が一体となって推進している。



本市だけでなく、全国的な課題として、家庭の経済力による学力格差が挙げられる。学習意欲があり、進学の希望があるにもかかわらず生活が困窮している等、経済的な理由から、塾など学校以外の学習の機会を得られない生徒に対して、学習の機会を保障することが急務である。

そこで、退職教員や教員免許状所有者、大学生を教育ボランティア（有償）として委嘱し、土曜日や放課後等を利用して、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図るため、学習支援充実「くまなびスクール」事業を平成27年度から実施することとなった。

2 「くまなびスクール」の概要



【くまなびスクールの学習風景】

(1) 目的

補充学習の充実を図り、熊谷市内の中学生の学力を底上げし、「学力日本一」を目指すこと。

(2) 事業内容

退職教員や教員免許状所有者、大学生等を対象に、くまなびスクールの学習支援員（教育ボランティア（有償））を市報等で公募し、熊谷市内の全中学校（16校）で実施する。土曜日や放課後等を利用して、くまなびスクールに参加する生徒一人一人に対するきめ細かな指導を通して、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。

(3) 予算

879万円

(国の地方創生補助金と熊谷市一般会計補正予算)

(4) 期間

平成27年6月～平成28年3月

(5) 実施回数

各学校ごとに年間25回以内

※ 週1回程度(土曜日の2時間を基本とする。学校事情により、平日の2時間でも可とする。)

今年度、土曜日に行っている学校は11校で、平日に行っている学校は5校である。

(6) 参加対象

経済的な理由等の限定をかけずに、市内全ての中学生を対象とし、本人の希望と保護者の同意書をもって参加を認めている。

(7) 実施場所・時間

市内の全中学校で行い、教室や時間帯については学校の判断としている。

(8) 学習形態

主に自主学習形式で行っている。参加生徒は、熊谷市独自の学習テキストである「熊谷市学力向上テキスト(国語・数学・英語)」や問題集等を持参し、分からない問題等を学習支援員に質問する。

3 くまなびスクールの魅力

(1) 補充学習の充実

① 全中学校(16校)で実施

市内全ての中学生(5,276人:平成27年5月1日現在)を対象とし、全中学校(16校)を会場として実施していることが大きな魅力である。これは、各中学校の校長先生をはじめとする、教頭先生、先生方の本事業への理解と協力体制の充実から成り立っているものである。「自分の学校の生徒のためですから。」と、本事業

の立ち上げから実施に至るまで、各中学校に多大なる御支援をいただいたことに厚く感謝申し上げます。

参加については、各学校が家庭に参加希望の通知を出し、本人の希望と保護者の同意書により参加を認めている。今年度は、560名(平成27年5月9日現在)の申込みがあった。熊谷市内の中学生のおよそ1/10が参加し、学力を高めている。

② クラス編成の工夫

全中学校が、2クラス編成としている。具体的には、基礎学習を中心に行う1・2年生クラスと、基礎学習や入試対策等を行う3年生クラスとなっている。

③ 自主学習の形態

参加している生徒が、自分のペースに合わせて学習できるように、自主学習の形態にしている。分からない問題等については、学習支援員に質問し、その場で解決できるようにしている。参加している生徒の多くは、自分で学習計画を立て、主体的に学習に取り組んでいる。この自主学習の形態のよさは、一般的に自主学習が苦手だとされる学力低位層の生徒も自分で学習計画を立て実行できるようになっていくことと、生徒の習熟度に応じた個別指導ができることである。この形態により、日頃の家庭学習の習慣化の一助になることを期待している。



【自主学習の形態のくまなびスクール】

④ 中学校版「熊谷市学力向上テキスト（国語・数学・英語）」の活用

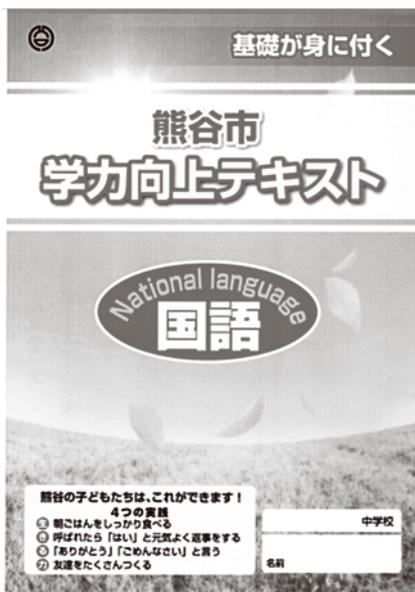
くまなびスクールの共通のテキストとして、中学校版「熊谷市学力向上テキスト（国語・数学・英語）」を活用している。

本市では、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図るため、「熊谷市学力向上テキスト」を作成している。このテキストは、小学校版と中学校版があり、授業や補充学習、家庭学習等で活用している。

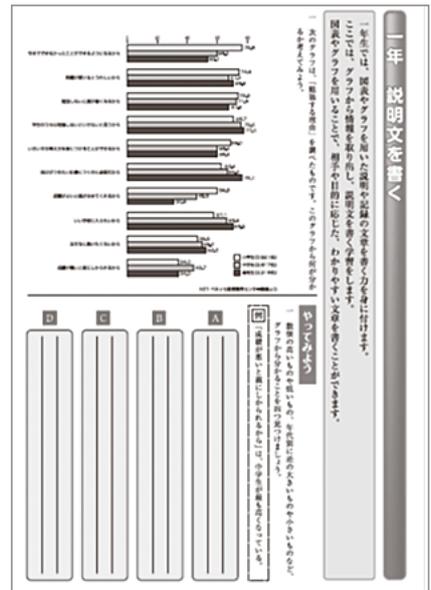
小学校版は、国語と算数の2教科で、4年生から6年生で学習する内容や問題をまとめた内容である。

中学校版は、国語と数学と英語の3教科で、中学1年生から3年生で学習する内容や問題（埼玉県入試問題の類似問題等）をまとめた内容である。

小学校版も中学校版も、市内の教員で構成されている教科主任会の部長、副部長、常任委員と教育委員会とで作成し、内容の見直しを行っている。小学校版は、毎年、市内の小学校4年生全員に配布し、中学校版は、毎年、市内の中学校1年生全員に配布している。



【中学校版「熊谷市学力向上テキスト（国語・数学・英語）」】



【国語】



【中学校版「熊谷市学力向上テキスト（国語・数学・英語）」】



【数学】

チャレンジ1年生
次の()内の単語をならびかえて、日本語の内容に合うように英文をつくらう。

① 私の弟は野球選手です。
(is / My brother / a baseball player)

② 私は、東京には住んでいません。
(don't / live / I / in Tokyo)

③ クミは今ピアノを弾くことができません。
(play / now / Kumi / the piano / can't)

④ あなたは、英語と数学ではどちらが好きですか。
(or / do / like / math / Which / English / you)?

⑤ 私は一週間前に本屋に行った。
(a week ago / went to / I / a book store)

⑥ この公園では、サッカーをするな。
(in / play / park / Don't / this / soccer)

解答と日本語の語順

① My brother is a baseball player
「私の弟」「は(は)」「野球選手」

② I don't live in Tokyo.
「私」「しない」「住む」「東京に」

③ Kumi can't play the piano now.
「クミ」「できない」「弾く(演奏する)」「ピアノを」「今」

④ Which do you like English or math?
「どちらが」「好きですか」「英語」「それとも」「数学」

⑤ I went to a book store a week ago.
「私」「行った」「本屋に」「一週間前に」

⑥ Don't play soccer in this park.
「するな」「サッカーを」「公園で」

【英語】

(2) 学習支援員の充実

退職教員（校長等経験者を含む）や教員免許状所有者、大学生など地域の人材の有効活用を図るため、市報等で学習支援員を公募し、書類選考と面接を行っている。

くまなびスクールの学習支援員としての自覚をしっかりともち、非常に熱心に生徒に教えてくれている。学習支援員の多くが個に応じた指導を心がけ、生徒一人一人に対して一生懸命に教える姿に、生徒のやる気もさらに高まっているようである。

各学校への学習支援員の配置人数については、各学校の参加生徒数により決めている。多くの学校は、ベテラン（退職教員や教員免許所有者）と大学生の組合せにしている。ベテランの方を責任者とし、連絡調整等を担ってもらっている。

参加生徒が多い学校は、各クラスに2名ずつの計4名を配置している。

学習支援員として、10月1日現在で、54名登録している。

(3) 大学との連携

熊谷市にキャンパスのある立正大学と連携し、教員を目指して学んでいる大学生を学習支援員として、20名、委嘱している。

教員を目指している大学生ということもあり、

生徒への接し方や教え方に工夫が見られ、大変意欲的である。

(4) 安全面の充実

① くまなびスクール専用携帯電話の活用

生徒の欠席連絡等を把握するために、くまなびスクール専用携帯電話を活用している。この携帯電話は、各中学校の学習支援員の中の責任者に渡し、活用してもらっている。この携帯電話により、土曜日に学校の教室を使用する時も、学校の電話を使用することなく、実施できている。

② 保険の加入

参加生徒と学習支援員の方々には、交通安全について、教育委員会からも話をしているが、参加生徒の登下校時と学習支援員の出勤・退勤時を対象に、傷害保険に加入している。本事業は、傷害保険についても予算を組んでいる。現在のところ、保険を使用する事故等は起きていない。

4 成果と課題

教育委員会の指導主事や専門員が巡回しながら、各学校のくまなびスクールの実施状況を把握し、見届けをしている。見届けの中で、把握している成果と課題は以下のとおりである。

【成果】

- 経済的な理由による学力格差の解消につながりつつあること。
- 家庭学習の習慣化につながっていること。

【課題】

- 自主学習形式の形態だけでなく、生徒の実態に応じて、一部、授業形式等の形態を検討すること。
 - 学習支援員の確保と指導力の向上を図っていくこと。
- くまなびスクールの成果は、定期テストや各種の

学力・学習状況調査等の結果だけでなく、日々の授業の取組や家庭学習の習慣化の観点から見るができる。

くまなびスクールは、平成27年6月からの実施であるため、各種の学力・学習状況調査等の結果を見るのであれば、来年度の4月に実施される学力・学習状況調査が対象となるため、現時点では数値での成果を挙げることは難しい。しかし、くまなびスクールに参加している生徒の感想の中には、以下のような内容が多く見られた。

「くまなびスクールがなかったときは、土曜日の午前中に部活が終わると、午後は家で、テレビ

やゲームをして、だらだら過ごしてしまうことが多かった。でも、今は、土曜日の午前中に部活が終わると、午後からは、くまなびスクールに参加して、2時間学習しているので、時間を有効に使えている。特に、定期テスト前に、くまなびスクールがあり、分からないところをすぐ教えてもらったので、よかった。」(複数)

上記の生徒の感想からも、くまなびスクールの学力向上への効果に期待がもてる。

今後も、補充学習の充実を図り、熊谷市内の中学生の学力を底上げしていくため、本事業を推進していく。